

令和 5 (2023) 年度 学生生活実態調査報告書



2023. 10. 22 学園祭実行委員

目 次

I	全体のまとめ 一序に代えて一	1	36. 大学提供メールアドレスの利用	22	
II	調査の基本情報	3	37. 学生用ポータルサイトの利用方法	23	
III	学科／研究科別の回収状況	4	38. 学生用ポータルサイトの利用頻度	23	
IV	各質問に対する回答状況		39. SNSの利用状況	24	
	凡 例	5	40. SNSの利用時の意識	24	
	3. 出身地	6	41. 新型コロナウイルス感染症に関する意識	25	
	4. 住居の種類	6	V	学生生活委員会（令和5（2023）年度）	26
	5. 通学時の主な交通手段	7			
	6. 通学所要時間	7			
	7. 1ヶ月の収入（家庭から）	8			
	8. 1ヶ月の収入（奨学金）	8			
	9. 1ヶ月の支出（家賃）	9			
	10. アルバイトの頻度	9			
	11. アルバイトの目的	10			
	12. アルバイトの内容	10			
	13. 1ヶ月の収入（アルバイト）	11			
	14. オフィスアワーの認知度と利用	11			
	15. 朝食の摂取	12			
	16. 喫煙	12			
	17. 飲酒	13			
	18. 不安・悩みの有無	13			
	19. 不安・悩みの相談相手	14			
	20. 友人の有無	14			
	21. 友人と知り合った時期と場所	15			
	22. 本学のイメージ	15			
	23. 二足制（上履き）の遵守	16			
	24. カルトについて	16			
	25. マルチ商法について	17			
	26. 通学時のトラブル	17			
	27. 大学での昼食場所	18			
	28. 図書館の利用頻度	18			
	29. 健康管理センターの利用	19			
	30. 学生相談室の利用	19			
	31. ハラスメント対策の認知度	20			
	32. ボランティア活動	20			
	33. ボランティアセンターの認知度	21			
	34. 部・同好会への参加状況	21			
	35. 功労賞・学修賞の認知度	22			

I 全体のまとめ 一序に代えて

1. この報告書について

川崎医療福祉大学では、1995年以來、2年に一度、学生の生活を把握し、学修環境改善のための基礎資料を得ることを目的として、在籍するすべての学生を対象に「学生生活実態調査」を行っています。今回の調査は、新型コロナウイルス感染症の位置づけがこれまで2類感染症相当であったものが、令和5年5月8日から「5類感染症」に移行し、約3年ぶりに社会全体がコロナ前に戻りつつある中で実施されました。このような社会背景を踏まえ、未曾有の感染症が学生たちにどのような変化をもたらしたのかを理解する上でも貴重なデータとなると思われます。また、今後の多様な学生を理解していく上でも参考になると思われますので各調査結果をご覧いただければ幸いです。

2. 実施、回収状況について

本調査は、2023年の7月に実施されました。5月1日時点での在籍学生総数は4,030名であり、そのうちの3,259名から回答を得ることができました。回収率は80.9%と前回の85.6%から若干減少しました。しかし、全体としては十分な回答を得ることができました。皆様のご協力に厚くお礼を申し上げます。

3. 質問内容と結果について

今回は質問数を43項目から41項目に削減しました。削減項目は新型コロナウイルス感染症についての質問を2項目、授業に関する質問を2項目、計4項目。追加項目としては、学科名の選択を1項目、通学時のトラブルに関する質問を1項目追加しました。

ここでは「住居、通学、経済状況」「授業、勉学状況」「生活習慣、不安や悩み、友人、本学の印象」「学内施設利用、学生相談」「ボランティア、部・同好会活動」「SNSの利用」「新型コロナウイルス感染症への意識と対策」の7項目に分けて結果の概要を説明します。

(1) 住居、通学、経済状況 (問3~13)

中国・四国地方出身者が9割(岡山県内出身者は5割)、自宅生が6割弱という比率は前回、前々回と変化がありませんでした。通学方法は電車が最も多く、また学生の4分の1は1時間以上かけて通学しています。経済状況では、家庭から生活費の援助を受けていない学生が4割、奨学金を受給している学生は約5割でした。また、アルバイト事情では、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い頻度と収入に増加傾向が見られ、内容についても飲食店でのアルバイトが増加しました。

(2) 授業、勉学状況 (問14)

オフィスアワーを利用している学生はアンケート回答者のうち1割弱であり「オフィスアワーがあることは知っているが、その日時に合わせて訪ねたことはない」「オフィスアワーがあることを知らない」の合計は9割を超えました。この理由としては、Microsoft TeamsやWebClassなど学生と教員を結びつけるコミュニケーションツールの浸透・活用によってオフィスアワーの利用頻度が相対的に減少したためと考えられます。しかし、オフィスアワーは学生と教員が質問や相談に対面で応じることのできる重要な機会であることには変わりありませんので「オフィスアワーがあることを知らない」学生の割合を小さくするように、今後も継続的にオリエンテーションなどで周知していく必要があると考えられます。

(3) 生活習慣、不安や悩み、友人、本学の印象 (問15~26)

朝食の摂取については、前回とほぼ同様の状況でした。対面授業に戻りましたが、自宅でのオンライン授業等の影響で生活が不規則になったままの学生もそれなりにいるのではないかと思います。喫煙については減少傾向が続き、飲酒は増加に転じました。

何らかの不安や悩みを持つ学生は、77%で前回から減少しました。「勉学関係」には58%、「就職や将来の問題」には39%の学生が不安や悩みを持っており、いずれも前回は下回っていました。また、相談相手は「友人や先輩」が最も多かったもののその割合は若干減少し、さらに「相談せず、自分で対処している」や「教員」の割合も減少しました。その一方で「家族」の割合が増加しています。新型コロナウイルス感染症の影響で自宅学習が増え、友人と会う機会も減少していたため、家族と相談する機会が増えたのではないかと考えられます。また、親しい友人や友人がいないとする学生の割合が4.5%あり、前回より若干増加していました。

本学の印象については、「専門職業人を育てる大学」という回答が73%で、前回は78%、前々回は74%となっており、専門性に特化した大学のイメージが強いことがうかがえます。上履きの励行については、96%の学生が「守っている」と回答しており、環境美化の点で本学に対する外部のイメージアップにも貢献しています。

「カルト」や「マルチ商法」に遭遇した学生は、いずれも1割に満たないことがわかりましたが、それらの情報や実態について知らない学生が依然として多く、継続的な注意喚起が必要であることがわかりました。

(4) 学内施設利用、学生相談 (問 27~31)

新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたため、昼食時に開放される教室以外に、2階の学生ラウンジや各階ラウンジでの昼食が増加しました。

図書館の利用については「ごくたまに利用する」の割合が50.9%で、「利用していない」の割合も32.1%と前回の調査と同じような結果でした。

学生の健康管理に関わる「健康管理センター」と「学生相談室」についても、利用するにあたっての抵抗感は前回より下がっていましたが、「健康管理センターがあることを知らない」「学生相談室があることを知らない」割合が、いずれも前回の8.5%から9.9%、前回の10.7%から14.2%と増加していることから、これらの施設について周知していく必要があります。

「ハラスメント相談の取組」については、「利用するのに抵抗はない」の割合が60.2%となっており、半数以上の学生が利用に抵抗がないものの、「利用するのに抵抗がある」の割合も22.3%と抵抗のある学生が一定の割合であることがわかりました。また、「ハラスメント相談の取組があることを知らない」の割合は17.5%と前回の20.4%から減少していますが、入学時のオリエンテーションやガイダンスで「快適な学生生活のために」(パンフレット)などを活用して、より一層周知させる必要があります。

(5) ボランティア、部・同好会活動 (問 32~35)

「部活動」「同好会(サークル)活動」「学友会」「学園祭実行委員会」などに加入している学生の割合は、全体では46.9%と前回(47.9%)や前々回(48.6%)に比べて減少傾向にあります。一方、前回に比べて減少したのは、「学友会」で今回は6.7%と前回の11.1%に比べて4.4ポイント減少しています。

また、ボランティア活動について「現在、行っている」学生が5.8%と前回の2.9%から倍増し、積極的に活動する学生が増加しました。その一方、「今後行ってみたい」学生が前回の65%から57.8%に減少し、「興味がない」学生が前回の15.2%から17.3%に増加するなど、ボランティア活動に関心のない学生も増えています。

(6) SNSの利用 (問 36~40)

「大学から提供されているメールアドレス(学籍番号@kwmw.jp)」の利用率は89.3%で、「学生用ポータルサイト」の利用頻度についても「ほぼ毎日」と「2~3日に1回程度」の割合の合計が75%になるなど、利用の増加は、これらを用いた授業や大学からの情報発信が多くなったことによる結果であると考えられます。「学生用ポータルサイト」は、半数以上の学生がパソコンとスマートフォンの複数の通信機器を使って利用しています。

SNSについては「LINE」の利用が最も多く、95%の学生が使用していました。発信される情報が「適切かどうか意識している」と回答した学生は85%でしたが、「意識していない」学生が12.2%と前回調査の10.5%から増加していました。「意識していない」割合を0%にしていく必要があります。

(7) 新型コロナウイルス感染症への意識と対策 (問 41)

今回の調査が実施された2023年7月の約2カ月前の2023年5月8日より、新型コロナウイルス感染症はそれまでの「2類」から「5類」に移行したことで、行動制限が緩和されました。そのため、今回の調査の設問は1問のみになりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止に関して何らかの対策を意識的に行っている学生の割合は今回の調査では、いずれの項目においても大幅に減少しており、上記の行動制限の緩和の影響があったと思われます。

Ⅱ 調査の基本情報

1. 調査の目的

本学（川崎医療福祉大学，同大学院）で学ぶ学生の生活および学修の状況を把握し、学生の学修環境の理解と改善に役立てるための基礎資料とする。

2. 実施主体

本学学生生活委員会（本報告書末尾参照）。準備ならびに報告書作成は学生課の多大な協力のもと学生部長・副部長・学生課長の責任によって行なった。なお、一部質問は本学教務課と庶務課との協議により含めている。

3. 実施時期

令和5年7月後半を中心に実施した。

4. 対象者

調査時点での本学の学部および大学院に在籍するすべての学生で、対象者の総数は計4,030名（学部生3,907名、大学院生123名）であった。

5. 実施方法

今回よりマークシート方式からWebClassを用いたWeb入力に変更した。個人情報には学年、学科／専攻までの把握とし、7月10日（月）～7月31日（金）の調査期間中に各学科の学生生活委員を通じて実施した。

6. 回答状況

有効回答者数は、大学生3,907、大学院生123であった。回収数は3,259で、回収率は80.9%（前回85.6%）であった。回収率の低下の一因としては、Web入力に変更したためと考えられる。なお、母数には休学者数も含まれている。各学科・専攻別の回収数と回収率は次項Ⅲに示す。

7. 集計方法

各質問における集計表の比率は、原則として有効回答者数を分母とし、小数点第2位を四捨五入したものである。「複数回答可」とした質問においては、その質問への有効回答者数に対する比率を棒グラフで表示した。なお、一部未回答の項目がある回答も分析対象に含めたことから、分析時の母数は質問によって若干異なっている。

Ⅲ 学科／研究科別の回収状況

区分	学 部	学 科	回 答 数	在籍者数	回 答 率
学部	医 療 福 祉	医 療 福 祉	231	260	88.8%
		臨 床 心 理	209	306	68.3%
		子 ど も 医 療 福 祉	204	232	87.9%
	保 健 看 護	保 健 看 護	449	515	87.2%
	リハビリテーション	理 学 療 法	243	278	87.4%
		作 業 療 法	211	260	81.2%
		言 語 聴 覚 療 法	197	233	84.5%
		視 能 療 法	133	155	85.8%
	医 療 技 術	臨 床 検 査	226	276	81.9%
		診 療 放 射 線 技 術	256	287	89.2%
		臨 床 工	201	276	72.8%
		臨 床 栄 養	131	160	81.9%
		健 康 体 育	217	292	74.3%
		感 覚 矯 正	4	5	80.0%
		リハビリテーション	1	2	50.0%
	医療福祉マネジメント	医 療 福 祉 経 営	73	86	84.9%
		医 療 情 報	82	109	75.2%
		医 療 秘 書	94	110	85.5%
		医 療 福 祉 デ ザ イ ン	56	65	86.2%
	小 計			3,218	3,907
修士課程	医 療 福 祉 学 研 究 科		26	60	43.3%
	医 療 技 術 学 研 究 科		10	34	29.4%
	医 療 福 祉 マ ネ ジ メ ン ト 学 研 究 科		1	9	11.1%
	小 計			37	103
博士課程	医 療 福 祉 学 研 究 科		2	12	16.7%
	医 療 技 術 学 研 究 科		2	7	28.6%
	医 療 福 祉 マ ネ ジ メ ン ト 学 研 究 科		0	1	0.0%
	小 計			4	20
合 計			3,259	4,030	80.9%

IV 各質問に対する回答状況

凡 例

実際の質問文

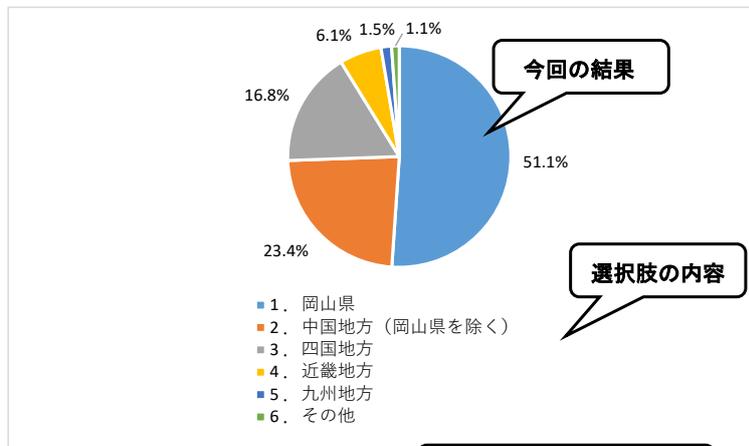
③ 出身地(回答者本人の帰省先)はどこですか。

1. 岡山県
2. 中国地方(岡山県を除く)
3. 四国地方
4. 近畿地方
5. 九州地方
6. その他

選択肢の内容

各選択肢の有効回答数

	1664
	761
	548
	199
	50
	36
有効回答数	3258



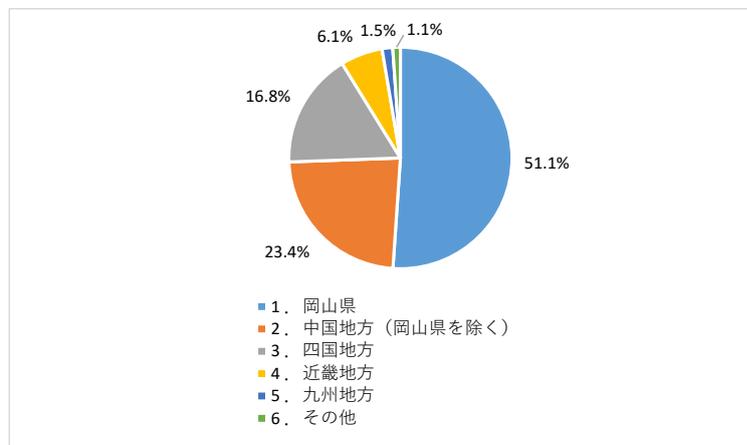
調査結果に対するコメント

岡山県出身者の割合は約半数の51.1%、岡山県を除く中国・四国地方の出身者は40.2%で本学の学生の約90%が中国・四国地方の出身者である。前回の調査からこの割合はほぼ一定であった。

③ 出身地(回答者本人の帰省先)はどこですか。

1. 岡山県
2. 中国地方(岡山県を除く)
3. 四国地方
4. 近畿地方
5. 九州地方
6. その他

1. 岡山県	1664
2. 中国地方(岡山県を除く)	761
3. 四国地方	548
4. 近畿地方	199
5. 九州地方	50
6. その他	36
有効回答数	3258

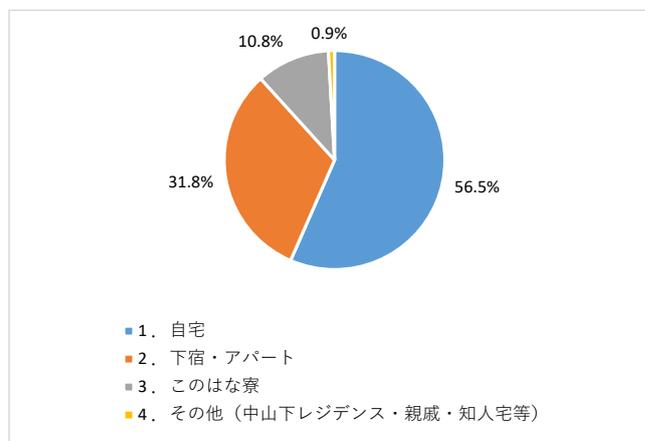


岡山県出身者の割合は約半数の51.1%、岡山県を除く中国・四国地方の出身者は40.2%で本学の学生の約90%が中国・四国地方の出身者である。前回の調査からこの割合はほぼ一定であった。

④ 現在のあなたの住居は次のどれですか。

1. 自宅
2. 下宿・アパート
3. このはな寮
4. その他(中山下レジデンス・親戚・知人宅等)

1. 自宅	1840
2. 下宿・アパート	1035
3. このはな寮	351
4. その他(中山下レジデンス・親戚・知人宅等)	29
有効回答数	3255



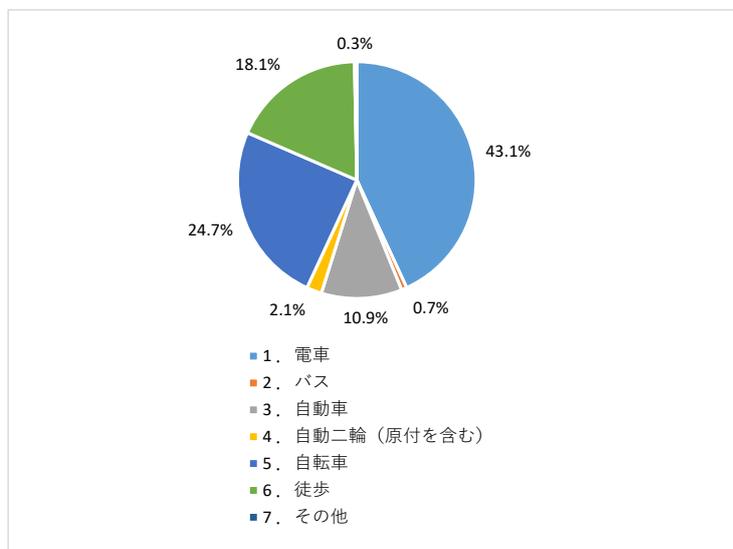
このはな寮の割合が前回の9.9%から今回10.8%にわずかではあるが増加した。自宅及び下宿・アパートのそれぞれの割合には大きな変化はない。現在約350名の女子学生がこのはな寮を利用している。

5 主な通学の方法はどれですか。

1. 電車
2. バス
3. 自動車
4. 自動二輪(原付を含む)
5. 自転車
6. 徒歩
7. その他

1405
24
356
67
804
591
10

有効回答数 3257



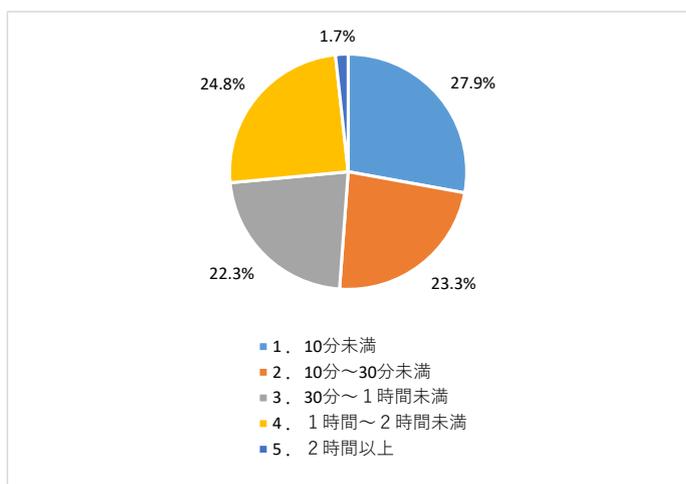
電車通学の割合が最も多く、近年40%程度の状態が続いている。朝のJR中庄駅付近の混雑状況が続いており、学生生活委員による巡視・交通指導を継続する必要がある。このはな寮の居住割合の増加に伴って、全体の42.8%は自転車と徒歩を合わせた近隣からの通学者である。

6 通学所要時間(片道)はどのくらいですか。

1. 10分未満
2. 10分～30分未満
3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満
5. 2時間以上

907
758
727
806
56

有効回答数 3254



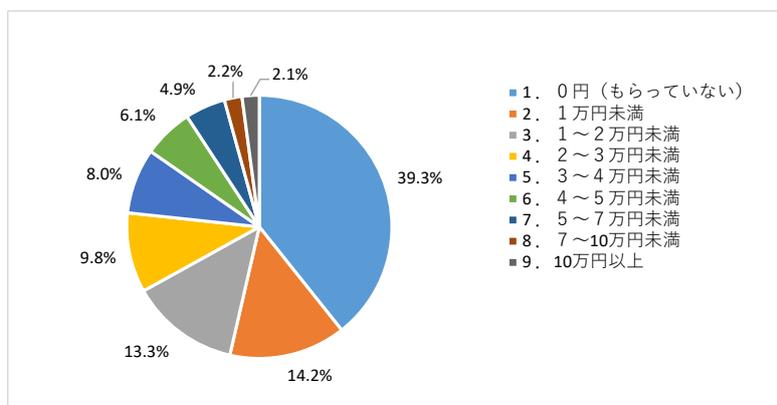
通学にかかる時間は「10分未満」、「10分～30分未満」、「30分～1時間未満」、「1時間～2時間未満」がだいたい4分の1ずつになった。この割合は前回、前々回とほぼ同じである。

7 今年度に入ってから、家庭からもらっている1ヶ月の収入はいくらですか。なお、授業料は入れないでください。

1. 0円(もらっていない)
2. 1万円未満
3. 1～2万円未満
4. 2～3万円未満
5. 3～4万円未満
6. 4～5万円未満
7. 5～7万円未満
8. 7～10万円未満
9. 10万円以上

1277
462
433
318
260
198
160
70
68

有効回答数 3246



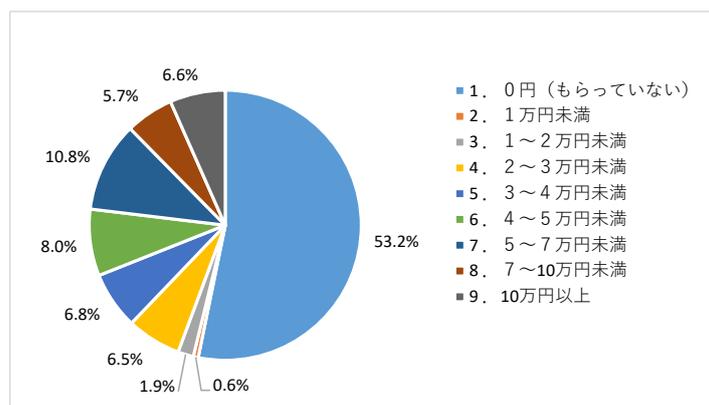
家庭から生活費の援助を受けていない学生が39.3%であった。前回は38.6%、前々回が38.0%であったので、その割合は増加傾向にある。2万円未満の学生は全体の66.8%、5万円以上の学生は全体の9.2%であった。

8 今年度、1ヶ月あたりの奨学金・給付金(日本学生支援機構などから受給しているもの)はいくらですか。

1. 0円(もらっていない)
2. 1万円未満
3. 1～2万円未満
4. 2～3万円未満
5. 3～4万円未満
6. 4～5万円未満
7. 5～7万円未満
8. 7～10万円未満
9. 10万円以上

1719
19
60
209
221
258
348
185
213

有効回答数 3232



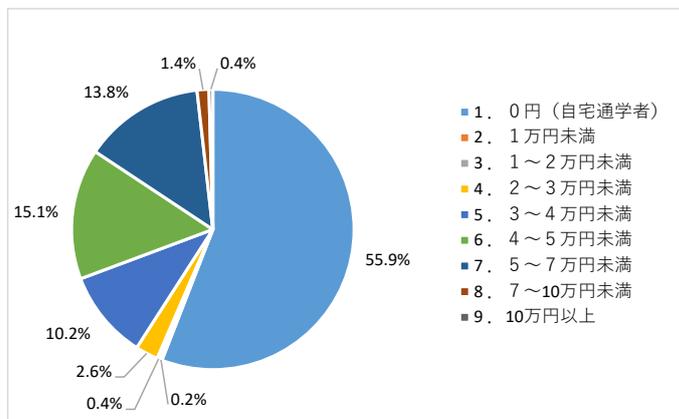
奨学金をもらっていない学生は前回の53.6%から若干減少して53.2%となった。各項目の割合も前回、前々回とほぼ同じ状況となっている。なお、全体の学生数の減少に伴い、奨学生の数は減少している。

9 現在、1ヶ月の家賃はいくらですか。

1. 0円(自宅通学者)
2. 1万円未満
3. 1～2万円未満
4. 2～3万円未満
5. 3～4万円未満
6. 4～5万円未満
7. 5～7万円未満
8. 7～10万円未満
9. 10万円以上

1808
7
12
84
331
488
448
44
14

有効回答数 3236



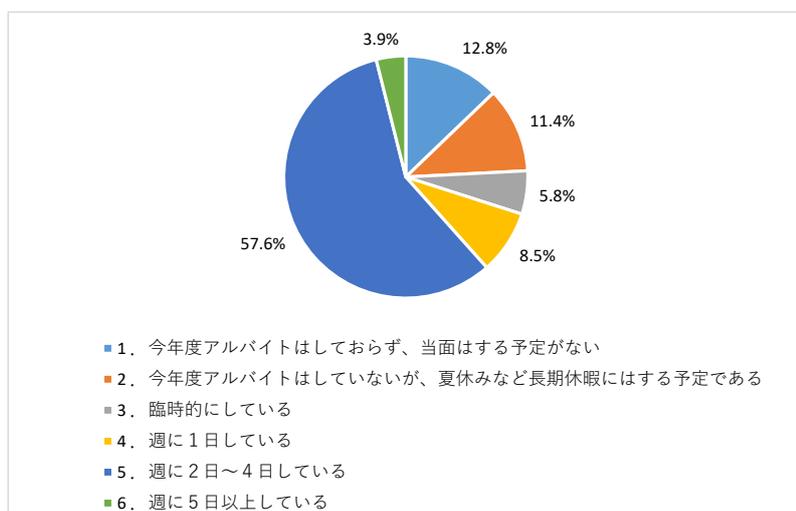
各項目の割合は全体的に前回とほぼ同じ傾向にあるが、3～4万円未満が約2ポイント、4～5万円未満が約1ポイント減少した。逆に5～7万円未満が3ポイント増加している。新しいアパートや改修によって高い家賃の物件が増えつつあるのではないかと考えられる。

10 今年度のアルバイトの頻度はどれくらいですか。

1. 今年度アルバイトはしておらず、当面はする予定がない
2. 今年度アルバイトはしていないが、夏休みなど長期休暇にはする予定である
3. 臨時的にしている
4. 週に1日している
5. 週に2日～4日している
6. 週に5日以上している

415
371
188
276
1874
127

有効回答数 3251



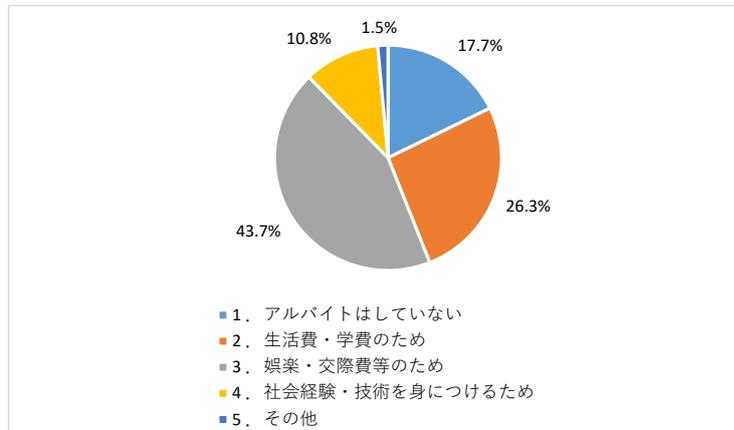
新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、アルバイトの実態に大きく影響が見られる。具体的には「週に5日以上している」が57.6%で前回の45.1%より13ポイント近く増加した。当面アルバイトをする予定がない学生の割合は前回の24.9%の約半分の12.8%となった。アルバイトの受け入れ先の増加に伴い、アルバイトを再開している傾向が読み取れる。

11 アルバイトの主な目的は何ですか。

- 1. アルバイトはしていない
- 2. 生活費・学費のため
- 3. 娯楽・交際費等のため
- 4. 社会経験・技術を身につけるため
- 5. その他

1. アルバイトはしていない	574
2. 生活費・学費のため	850
3. 娯楽・交際費等のため	1415
4. 社会経験・技術を身につけるため	350
5. その他	47

有効回答数 3236



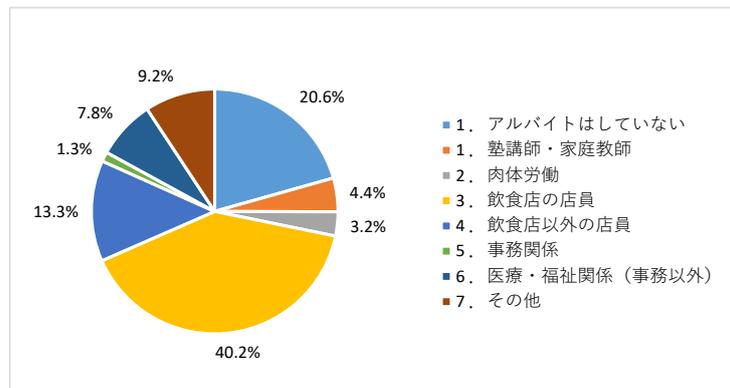
前回の調査でアルバイトをしていた学生のうち「娯楽・交際費（旅行・買い物も含む）等のため」を理由にあげたのは51.5%であった。今回の調査でも同様の計算を行うと53.2%となり、約2ポイント増加した。また「生活費・学費のため」が前回の34.3%から31.9%へ約2ポイント減少、「社会経験・技術を身につけるため」が前回の12.2%から13.1%へ約1ポイント増加している。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、娯楽や交際費の支出の増加傾向がうかがえる。

12 主なアルバイトの内容は次のうちどれですか。

- 1. アルバイトはしていない
- 1. 塾講師・家庭教師
- 2. 肉体労働
- 3. 飲食店の店員
- 4. 飲食店以外の店員
- 5. 事務関係
- 6. 医療・福祉関係（事務以外）
- 7. その他

1. アルバイトはしていない	667
1. 塾講師・家庭教師	144
2. 肉体労働	103
3. 飲食店の店員	1300
4. 飲食店以外の店員	432
5. 事務関係	41
6. 医療・福祉関係（事務以外）	251
7. その他	299

有効回答数 3237

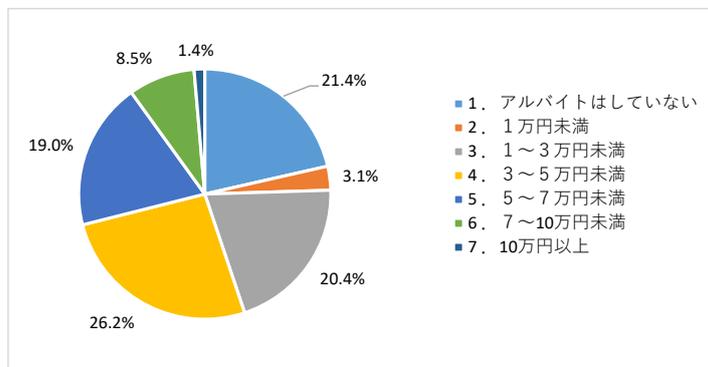


前回の調査でアルバイトをしていた学生のうち、飲食店の店員を主な内容にあげた学生は46.9%であったが、今回は50.6%と4ポイント近く増加した。新型コロナウイルス感染症の5類移行による飲食店の営業の緩和や再開が影響したためと考えられる。

13 1ヶ月の平均的なアルバイト収入はどれくらいになりますか。

1. アルバイトはしていない
2. 1万円未満
3. 1～3万円未満
4. 3～5万円未満
5. 5～7万円未満
6. 7～10万円未満
7. 10万円以上

1. アルバイトはしていない	694
2. 1万円未満	100
3. 1～3万円未満	660
4. 3～5万円未満	848
5. 5～7万円未満	617
6. 7～10万円未満	277
7. 10万円以上	44
有効回答数	3240

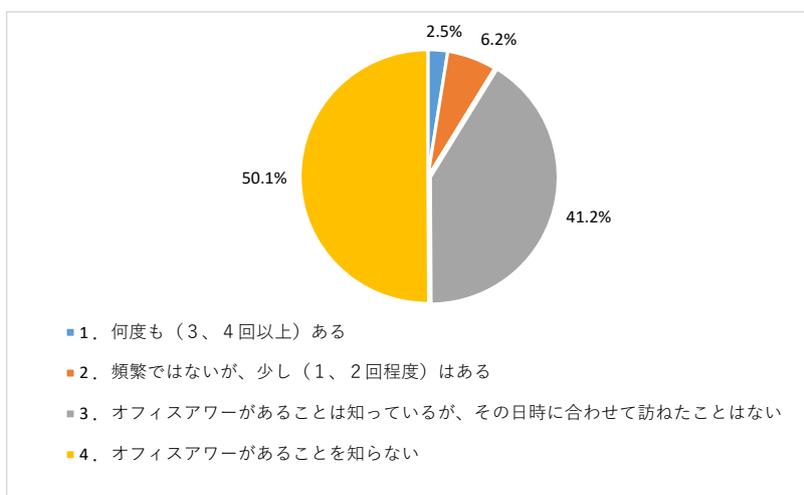


前回アルバイトをしていた学生のうち、1ヶ月の収入が5万円以上が28.4%であったが、今回は36.8%と8ポイントほど増加した。これに対し、5万円以下は前回より8ポイントほど減って63.2%となった。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴いアルバイトの機会を得た学生も多いと考えられる。

14 今年度に入ってから、オフィスアワー(学生からの質問や相談に応じるために教員が研究室にいる時間帯)を利用して、教員を訪ねたことがありますか。

1. 何度も(3、4回以上)ある
2. 頻繁ではないが、少し(1、2回程度)はある
3. オフィスアワーがあることは知っているが、その日時に合わせて訪ねたことはない
4. オフィスアワーがあることを知らない

1. 何度も(3、4回以上)ある	81
2. 頻繁ではないが、少し(1、2回程度)はある	202
3. オフィスアワーがあることは知っているが、その日時に合わせて訪ねたことはない	1333
4. オフィスアワーがあることを知らない	1622
有効回答数	3238

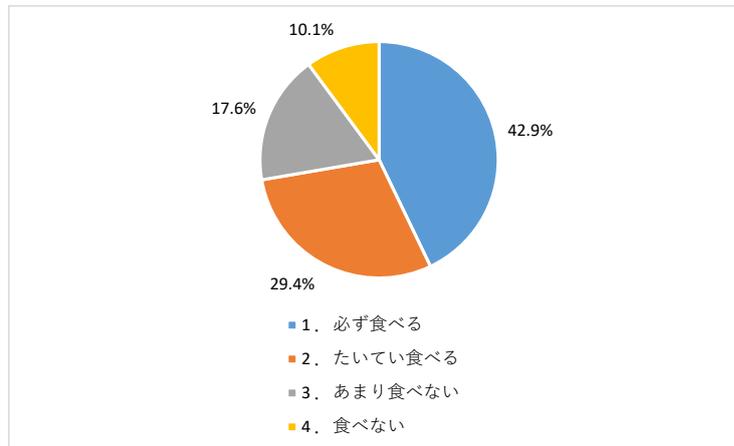


「何度も(3、4回以上)ある」、「頻繁ではないが、少し(1、2回程度)はある」を合わせて前回より約2ポイント減少して8.7%であった。問題なのは「オフィスアワーがあることを知らない」が3ポイント増加して50.1%になったことである。認知度の低下への対策を検討する必要があると思われる。

15 朝食を食べていますか。

1. 必ず食べる
2. たいてい食べる
3. あまり食べない
4. 食べない

	1393
	954
	573
	327
有効回答数	3247

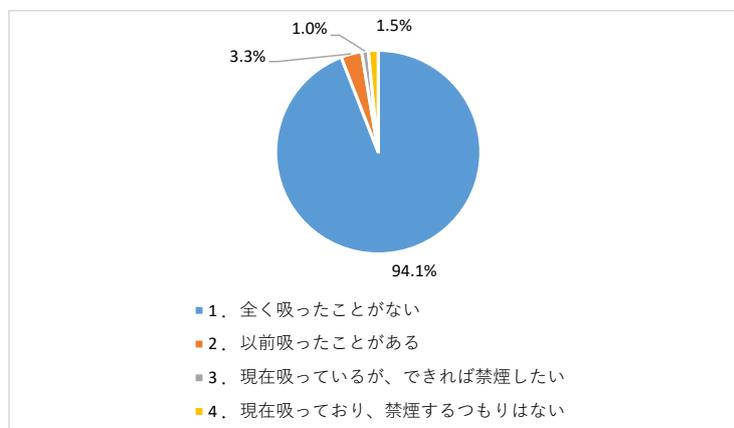


「必ず食べる」が前回とほぼ変わらず42.9%、「あまり食べない（たいてい食べない）」も前回とほぼ変わらず17.6%になった。大学での対面授業ができなかったことで生活が不規則なままである可能性も否めない。

16 喫煙はしますか。

1. 全く吸ったことがない
2. 以前吸ったことがある
3. 現在吸っているが、できれば禁煙したい
4. 現在吸っており、禁煙するつもりはない

	3056
	107
	34
	50
有効回答数	3247



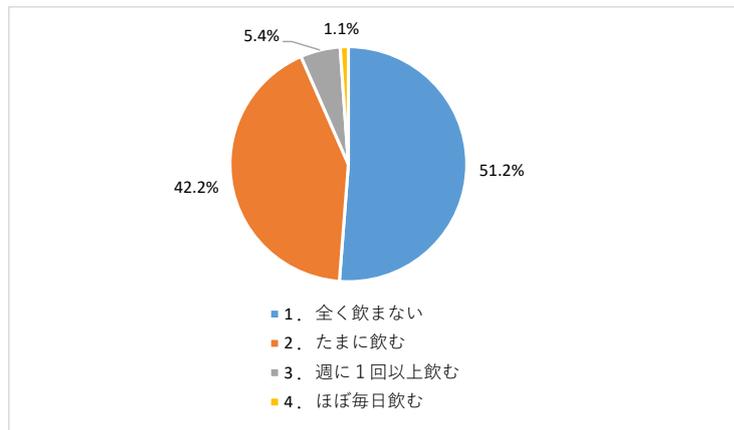
「全く吸ったことがない」は94.1%で前回より微増となり、傾向としては好ましいものとなった。オリエンテーションやガイダンス等を通して「現在吸っている」2.5%が0%に近づくよう禁煙指導を継続していく必要がある。

17 飲酒はしますか。

1. 全く飲まない
2. たまに飲む
3. 週に1回以上飲む
4. ほぼ毎日飲む

1664
1372
177
36

有効回答数 3249



「全く飲まない」割合が51.2%になった。前回は62.8%、前々回が57.7%であったので飲酒をしない学生の割合が減少した。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、飲酒をともなう会食の機会が増えてきたことも大きな要因であると考えられる。未成年飲酒に対する厳しい指導は継続する必要がある。

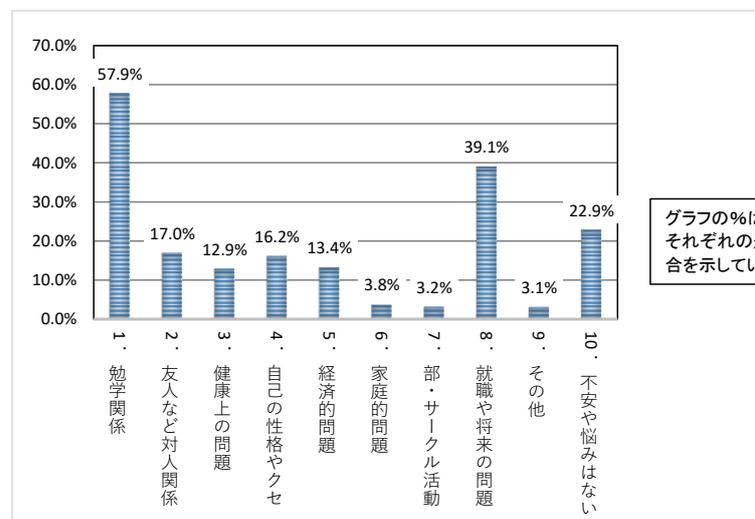
18 現在、不安や悩みはありますか。あてはまるものをすべてチェックしてください。

1. 勉学関係
2. 友人など対人関係
3. 健康上の問題
4. 自己の性格やクセ
5. 経済的問題
6. 家庭的問題
7. 部・サークル活動
8. 就職や将来の問題
9. その他
10. 不安や悩みはない

1858
546
415
520
430
123
103
1255
100
736

有効回答者数 3211

有効回答数 6086



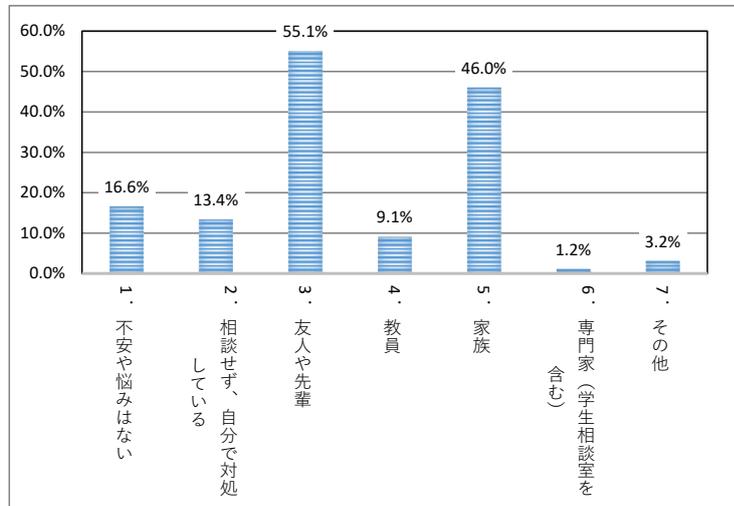
グラフの%は、有効回答者がそれぞれの選択肢を選んだ割合を示している。

「勉学関係」をあげた学生が57.9%と最も高く、前回より約2ポイント減少した。次いで「就職や将来の問題」が39.1%で、これも前回より約7ポイント減少した。その一方「友人など対人関係」は前回から約5ポイント増加した。オンライン授業から対面授業に移行したことで友人等との交流が増加したことによるものと考えられる。

19 現在の不安や悩みの主な相談相手は誰ですか。あてはまるものをすべてチェックしてください。

1. 不安や悩みはない
2. 相談せず、自分で対処している
3. 友人や先輩
4. 教員
5. 家族
6. 専門家(学生相談室を含む)
7. その他

1. 不安や悩みはない	532
2. 相談せず、自分で対処している	651
3. 友人や先輩	1763
4. 教員	292
5. 家族	1473
6. 専門家(学生相談室を含む)	37
7. その他	101
有効回答者数	3201
有効回答数	4849



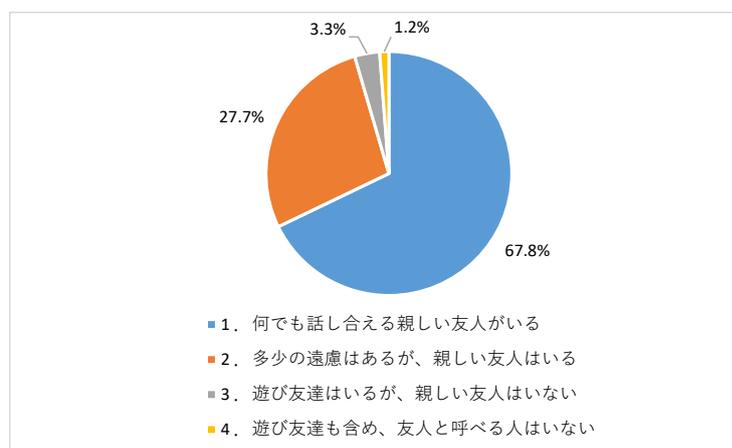
グラフの%は、有効回答者がそれぞれの選択肢を選んだ割合を示している。

相談相手として「友人や先輩」を選択した学生が前回同様最も多かった。不安や悩みを持つ学生のうち、「友人や先輩」を選択した前回の割合56.3%は、今回約1ポイント減少して55.1%となった。「相談せず、自分で対処している」は前回の34.5%から約21ポイントと大幅に減少して13.4%になった。5類移行に伴い友人や先輩と一緒に過ごす時間が増えたことも影響していると考えられる。一方、相談相手として「教員」をあげた学生は、11.9%から約3ポイント減少の9.1%になった。

20 あなたにはどの程度付き合える友人がいますか。

1. 何でも話し合える親しい友人がいる
2. 多少の遠慮はあるが、親しい友人はいる
3. 遊び友達はあるが、親しい友人はいない
4. 遊び友達も含め、友人と呼べる人はいない

1. 何でも話し合える親しい友人がいる	2202
2. 多少の遠慮はあるが、親しい友人はいる	899
3. 遊び友達はあるが、親しい友人はいない	107
4. 遊び友達も含め、友人と呼べる人はいない	39
有効回答者数	3247



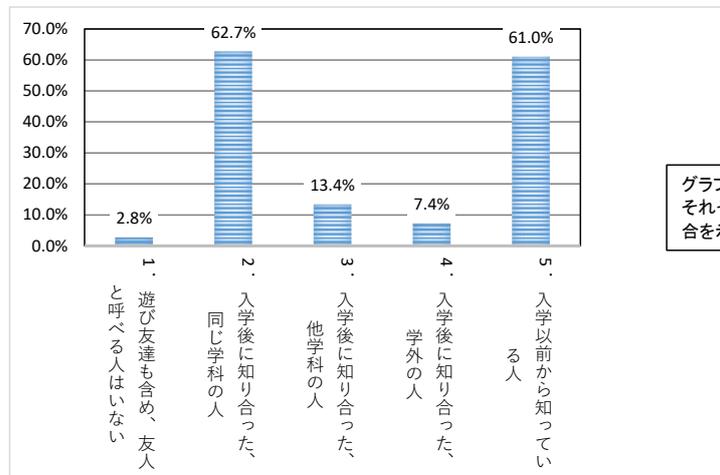
「何でも話し合える親しい友人がいる」、「多少の遠慮はあるが、親しい友人はいる」を合わせた割合は95.5%で、前回の96.6%とほぼ変わらない状況がみられた。学生生活において「遊び友達」を含めて付き合える友人をほとんどの学生が得ていることは好ましい状況と言える。

21 その友人は、次のどれにあたりますか。あてはまるものをすべてチェックしてください。

1. 遊び友達も含め、友人と呼べる人はいない
2. 入学後に知り合った、同じ学科の人
3. 入学後に知り合った、他学科の人
4. 入学後に知り合った、学外の人
5. 入学以前から知っている人

91
2025
432
238
1972

有効回答者数 3232
有効回答数 4758



グラフの%は、有効回答者がそれぞれの選択肢を選んだ割合を示している。

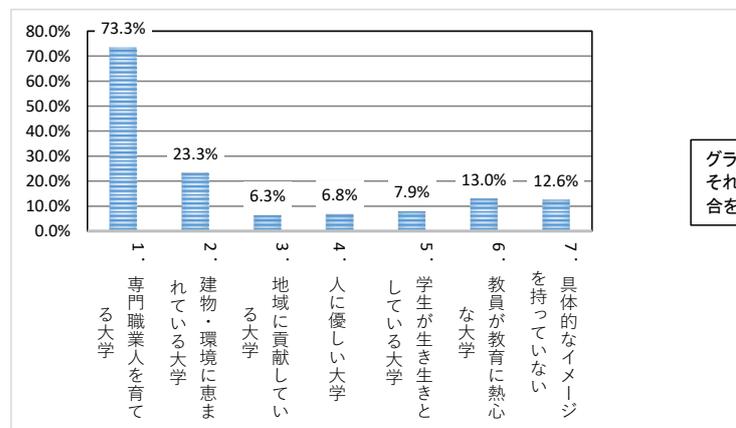
全体で最も割合が高かったのは「入学後に知り合った、同じ学科の人」の62.7%で、前回よりも2ポイント増加した。また「入学後に知り合った他学科の人」の13.4%も前回より3ポイント増加している。対面授業への移行だけでなく、部・同好会の本格的な活動再開など、学生生活に活気が戻りつつあると考えられる。

22 本学についてどのようなイメージを持っていますか。あてはまるものをすべてチェックしてください。

1. 専門職業人を育てる大学
2. 建物・環境に恵まれている大学
3. 地域に貢献している大学
4. 人に優しい大学
5. 学生が生き生きとしている大学
6. 教員が教育に熱心な大学
7. 具体的なイメージを持っていない

2367
751
203
219
255
420
405

有効回答者数 3227
有効回答数 4620



グラフの%は、有効回答者がそれぞれの選択肢を選んだ割合を示している。

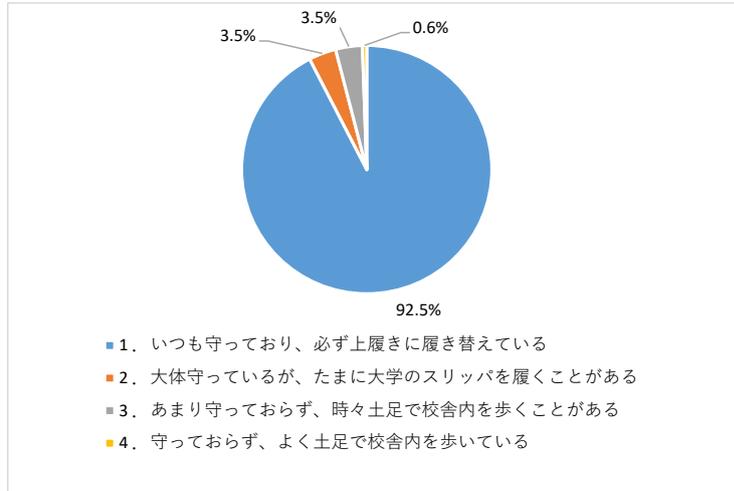
「専門職業人を育てる大学」と回答した割合が前回より約5ポイント減少し有効回答者数の73.3%となっているものの、前回、前々回に続いて専門性に特化した大学としてのイメージが強いということが分かる。前回に比べて「具体的なイメージを持っていない」学生の割合が約3ポイント増加し12.6%となっているが、大学のイメージはデータから見ると引き続き好印象の方向にあると考えられる。「学生が生き生きとしている大学」と回答した学生は前回から約3ポイント増加して7.9%であり、新歓行事や部・同好会活動などの復調傾向が現れていると考えられる。

23 本学は校舎内土足禁止(上履き着用)ですが、あなたはいつもこのルールを守っていますか

1. いつも守っており、必ず上履きに履き替えている
2. 大体守っているが、たまに大学のスリッパを履くことがある
3. あまり守っておらず、時々土足で校舎内を歩くことがある
4. 守っておらず、よく土足で校舎内を歩いている

2993
114
112
18

有効回答者数 3237



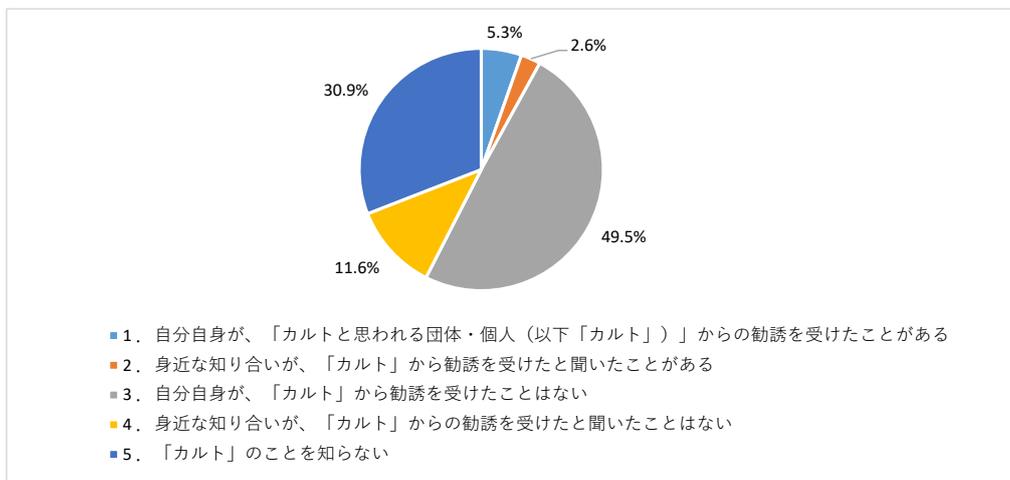
上履きの励行については「守っている」と答えた学生の割合は96.0%となっており、前回の98.0%から2ポイント減少し残念な結果となった。学内美化、衛生面そして外部の本学に対するイメージアップの面からも上履き励行100%を目指して引き続き学内巡視などに取り組む必要がある。

24 大学入学後の「カルト」に関する問題について、あなた自身はどれにあてはまりますか

1. 自分自身が、「カルトと思われる団体・個人(以下「カルト」)」からの勧誘を受けたことがある
2. 身近な知り合いが、「カルト」から勧誘を受けたと聞いたことがある
3. 自分自身が、「カルト」から勧誘を受けたことはない
4. 身近な知り合いが、「カルト」からの勧誘を受けたと聞いたことはない
5. 「カルト」のことを知らない

173
85
1603
375
1002

有効回答数 3238



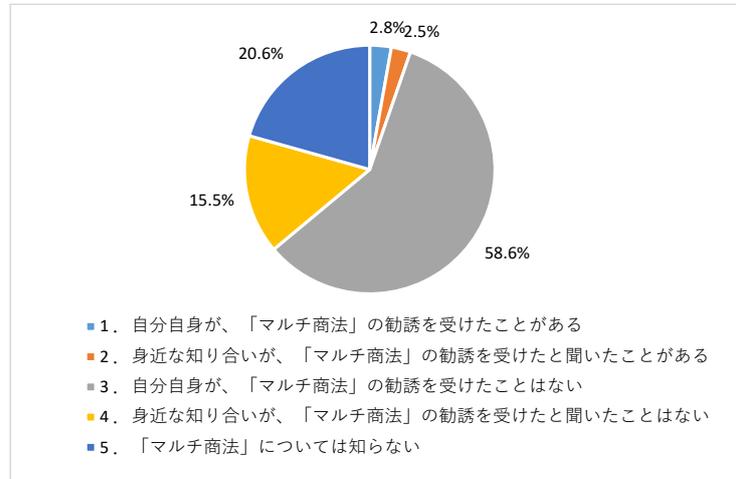
自分自身や身近な知り合いが「勧誘を受けたことがある」のは7.9%で前回の5.5%を約2ポイント上回ったが、「カルトのことを知らない」という割合は30.9%で前回の34.9%より4ポイント減少した。今後も引き続き、オリエンテーションや学科ガイダンス等を通して継続的にカルトに関する情報や注意喚起をしていく必要がある。

25 大学入学後の「マルチ商法」に関する問題について、あなた自身はどれにあてはまりますか

1. 自分自身が、「マルチ商法」の勧誘を受けたことがある
2. 身近な知り合いが、「マルチ商法」の勧誘を受けたと聞いたことがある
3. 自分自身が、「マルチ商法」の勧誘を受けたことはない
4. 身近な知り合いが、「マルチ商法」の勧誘を受けたと聞いたことはない
5. 「マルチ商法」については知らない

90
81
1896
501
667

有効回答数 3235



自分自身や身近な知り合いが「勧誘を受けたことがある」のが5.3%であり、前回より約3ポイント減少しカルトの場合より割合は小さくなった。一方「マルチ商法については知らない」という学生が前回と同じ割合の20.6%であった。カルト同様、オリエンテーションや学科ガイダンス等を通して継続的にマルチ商法に関する情報や注意喚起をしていく必要がある。

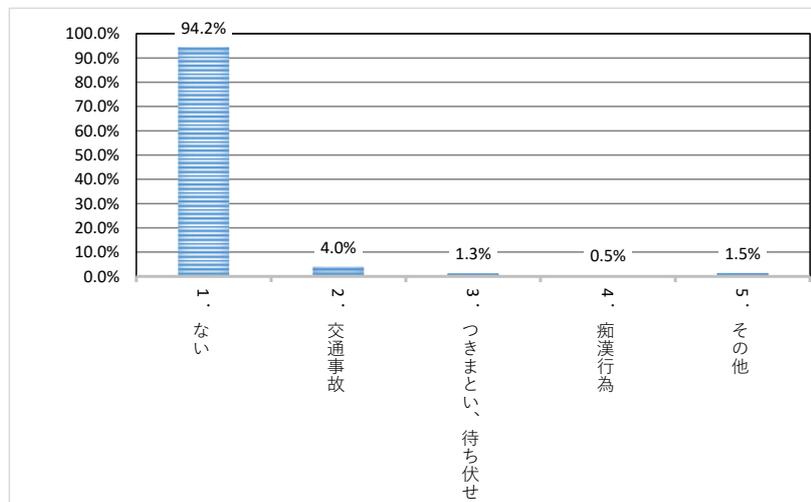
26 通学時に事故やトラブルを受けたことがありますか。(令和4年4月から現在の期間内で)あてはまるものをすべてチェックしてください。

1. ない
2. 交通事故
3. つきまとい、待ち伏せ
4. 痴漢行為
5. その他

3039
129
42
16
48

有効回答者数 3227

有効回答数 3274



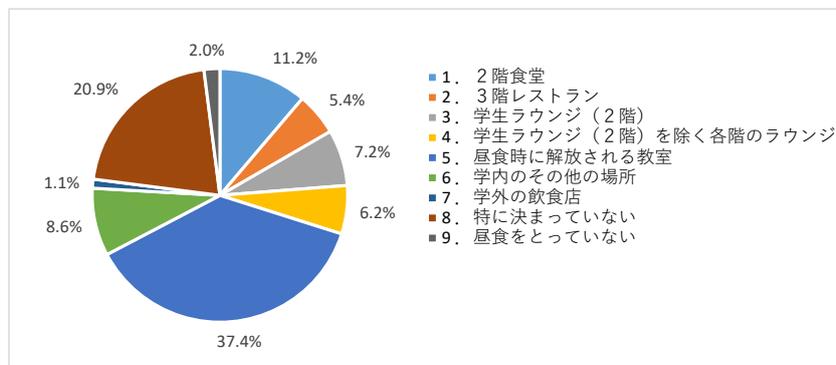
グラフの%は、有効回答者がそれぞれの選択肢を選んだ割合を示している。

今回新たに設けた設問である。何らかのトラブルを受けた学生の割合は5.8%であった。この割合を0にするため、オリエンテーションや学科ガイダンス等を通して通学時の事故やトラブルに巻き込まれないようにするための注意喚起を継続的にしていく必要がある。

27 ふだん(授業のある日)昼食は主にどこでとっていますか。

- 1. 2階食堂 362
- 2. 3階レストラン 176
- 3. 学生ラウンジ(2階) 232
- 4. 学生ラウンジ(2階)を除く各階のラウンジ 200
- 5. 昼食時に解放される教室 1211
- 6. 学内のその他の場所 280
- 7. 学外の飲食店 37
- 8. 特に決まっていない 679
- 9. 昼食をとっていない 65

有効回答数 3242

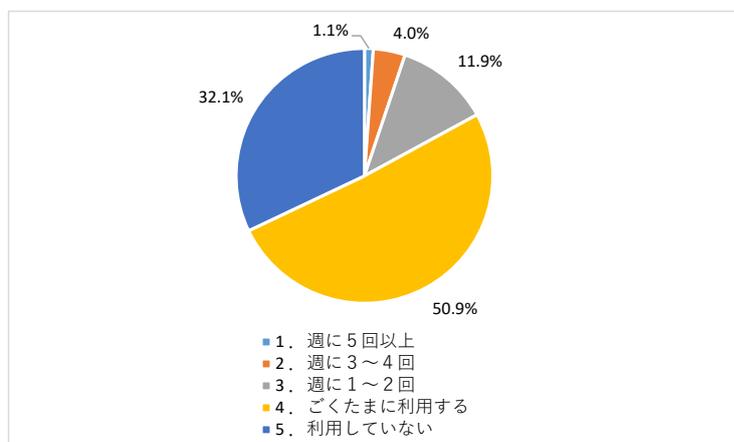


「昼食時に解放される教室」が最も多く37.4%であった。前回調査は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、飲食場所が制限されていたこともあり、学生ラウンジの割合が減少していたが、今回調査では「学生ラウンジ(2階)」と「学生ラウンジ(2階)を除く各階のラウンジ」の割合がいずれも倍増した。

28 本学の図書館をどの程度利用していますか。

- 1. 週に5回以上 36
- 2. 週に3~4回 130
- 3. 週に1~2回 386
- 4. ごくたまに利用する 1649
- 5. 利用していない 1040

有効回答者数 3241



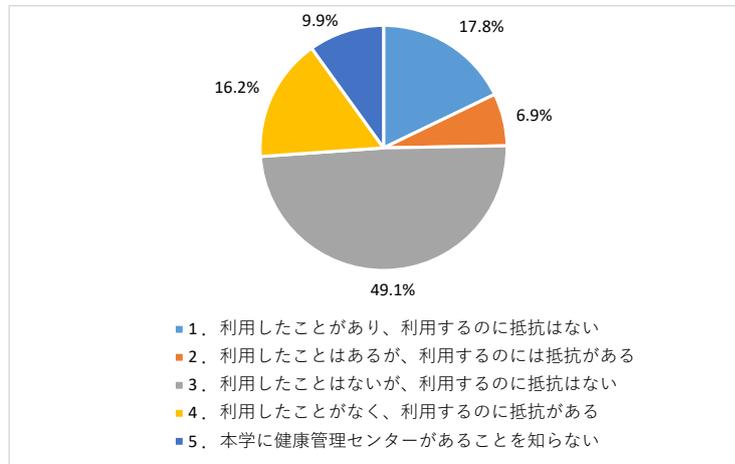
図書館の利用については「ごくたまに利用する」が50.9%、「利用していない」が32.1%と前回と同程度であった。「週に3~4回」が前回に比べて微増したが、学生の多くが図書館をあまり利用していない結果となっている。

29 本学の健康管理センターの利用について教えてください。

1. 利用したことがあり、利用するのに抵抗はない
2. 利用したことはあるが、利用するには抵抗がある
3. 利用したことはないが、利用するのに抵抗はない
4. 利用したことがなく、利用するのに抵抗がある
5. 本学に健康管理センターがあることを知らない

576
224
1590
525
320

有効回答者数 3235



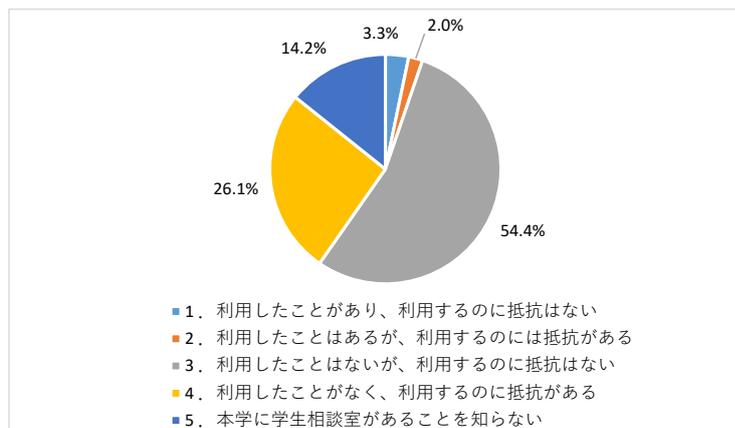
健康管理センターを「利用したことがある」が、今回24.7%と前回の22.6%から2ポイント増加した。「利用するのに抵抗はない」の割合は、66.9%と前回65.9%に比べて1ポイント増加し、「利用するのに抵抗がある」の割合が23.1%と前回の25.7%に比べて2.6ポイント減少していることから、利用するのに抵抗がない学生が増えている。その一方で、「本学に健康管理センターがあることを知らない」の割合が9.9%と前回の8.5%から1.4ポイント増加した。

30 本学の学生相談室の利用について教えてください。

1. 利用したことがあり、利用するのに抵抗はない
2. 利用したことはあるが、利用するには抵抗がある
3. 利用したことはないが、利用するのに抵抗はない
4. 利用したことがなく、利用するのに抵抗がある
5. 本学に学生相談室があることを知らない

105
63
1755
843
458

有効回答者数 3224



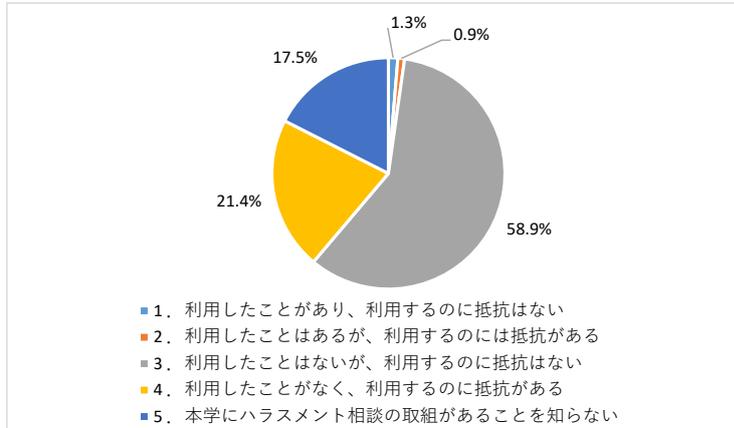
学生相談室を「利用したことがある」が今回5.3%で、コロナ禍での登校制限等で利用が少なかった前回の4.7%より増加したが、前々回の5.6%と同程度となった。「利用するのに抵抗はない」の割合が、前回の55.5%から2.2%増加し、57.7%となった。また「利用するのに抵抗がある」の割合は、前回の33.9%から5.8ポイント減少して28.1%となった。その一方で、「本学に学生相談室があることを知らない」割合は14.2%で、前回の10.7%より3.5ポイント増加した。

31 本学のハラスメント相談の取組について教えてください。

1. 利用したことがあり、利用するのに抵抗はない
2. 利用したことはあるが、利用するには抵抗がある
3. 利用したことはないが、利用するのに抵抗はない
4. 利用したことがなく、利用するのに抵抗がある
5. 本学にハラスメント相談の取組があることを知らない

42
30
1903
691
565

有効回答者数 3231



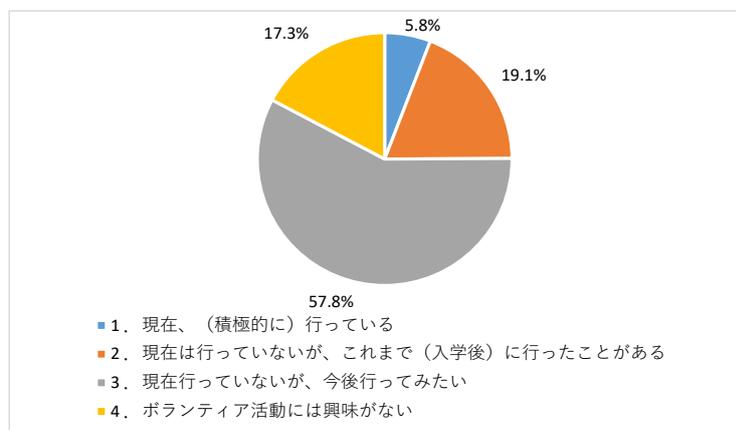
ハラスメント相談を「利用したことがある」は今回2.2%で前回の1.6%をやや上回った。「利用するのに抵抗はない」が60.2%と多くの学生が利用に抵抗がないが、「利用するのに抵抗がある」が22.3%と利用に抵抗のある学生が一定数いる。また、「ハラスメント相談の取組があることを知らない」が17.5%と前回20.4%から約3ポイント減少したが、引き続き入学時のオリエンテーションやガイダンス「快適な学生生活のために」（パンフレット）などを活用して、より一層周知させる必要がある。

32 ボランティア活動について教えてください。

1. 現在、(積極的に)行っている
2. 現在は行っていないが、これまで(入学後)に行ったことがある
3. 現在行っていないが、今後行ってみたい
4. ボランティア活動には興味がない

189
617
1870
558

有効回答者数 3234

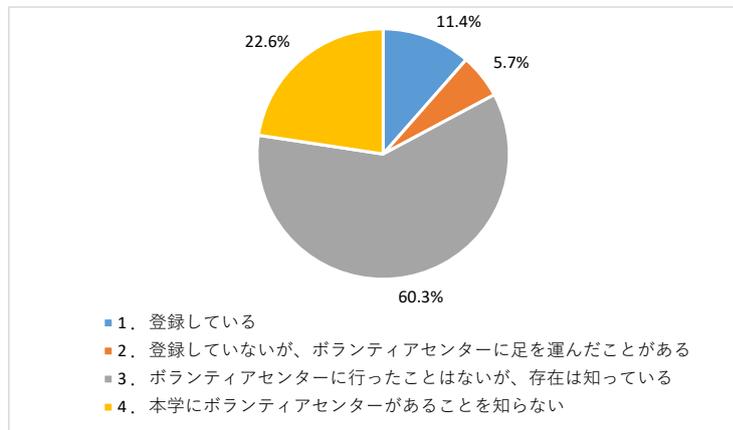


「現在、(積極的に)行っている」割合は5.8%と前回の2.9%から倍増した。これは、コロナ禍で制限が加わっていたボランティア活動が少しずつ再開していることが影響していると思われる。だが、「現在行っていないが、今後行ってみたい」は前回の64.9%から今回57.8%と約7.1ポイントも減少し、「ボランティア活動に興味がない」とする学生が前回の15.2%から17.3%と約2ポイント増加した。積極的にボランティア活動する学生が増加傾向にあるが、その一方でボランティア活動に関心のない学生も増加傾向にある。

33 本学のボランティアセンターについて教えてください。

1. 登録している
2. 登録していないが、ボランティアセンターに足を運んだことがある
3. ボランティアセンターに行ったことはないが、存在は知っている
4. 本学にボランティアセンターがあることを知らない

	369
	185
	1947
	730
有効回答者数	3231

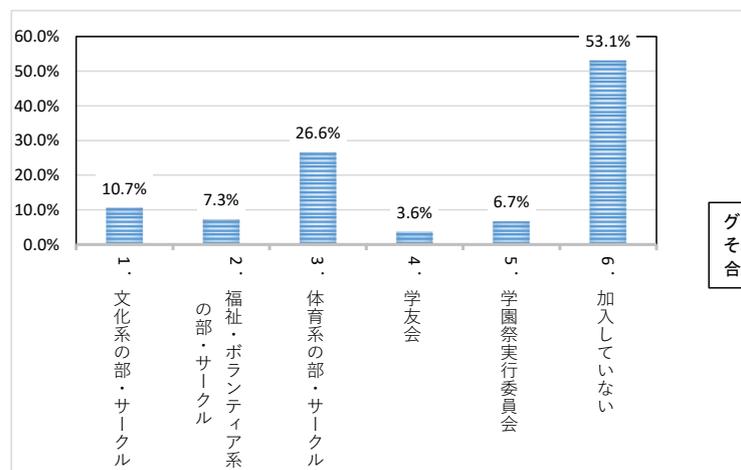


「登録している」割合が11.4%と前回の4.6%を大幅に上回り、6年前の水準に戻った。「ボランティアセンターに行ったことはないが、存在は知っている」割合が60.3%と多く、「本学にボランティアセンターがあることを知らない」割合が22.6%と前回の26.1%より3.5ポイント減少した。引き続きボランティアセンターの活動内容の紹介等を進めていく必要がある。

34 現在、あなたが加入している部・同好会・学友会・学園祭実行委員会について、あてはまるものをすべてチェックしてください。

1. 文化系の部・サークル
2. 福祉・ボランティア系の部・サークル
3. 体育系の部・サークル
4. 学友会
5. 学園祭実行委員会
6. 加入していない

	345
	237
	857
	117
	217
	1712
有効回答者数	3226
有効回答数	3485



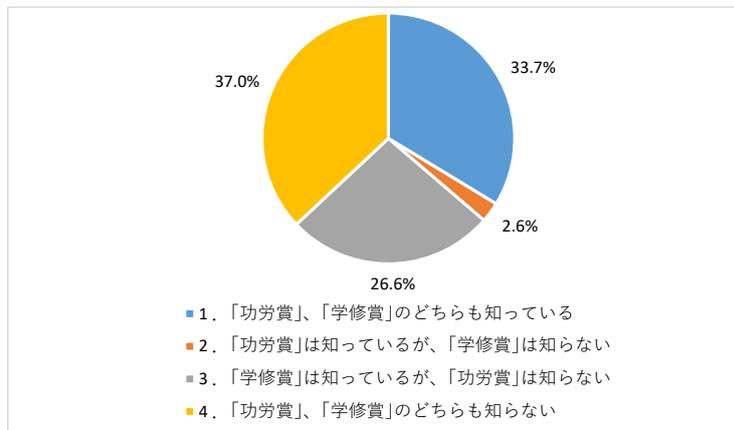
グラフの%は、有効回答者がそれぞれの選択肢を選んだ割合を示している。

部・同好会に加入している割合は46.9%で前回の47.9%、前々回の48.6%と毎回減少傾向にある。だが、文化系の加入割合は10.7%で前回の8.9%に比べて増加し、福祉ボランティア系が7.3%で前回の5.2%に比べて増加し、体育系の加入割合も今回26.6%と前回の25.4%に比べて増加した。減少したのは、学園祭実行委員会で前回の11.1%に比べて今回は6.7%と4.4ポイント減少した。

35 本学における「功労賞」、「学修賞」の制度について教えてください。

1. 「功労賞」、「学修賞」のどちらも知っている
2. 「功労賞」は知っているが、「学修賞」は知らない
3. 「学修賞」は知っているが、「功労賞」は知らない
4. 「功労賞」、「学修賞」のどちらも知らない

	1090
	84
	861
	1196
有効回答者数	3231

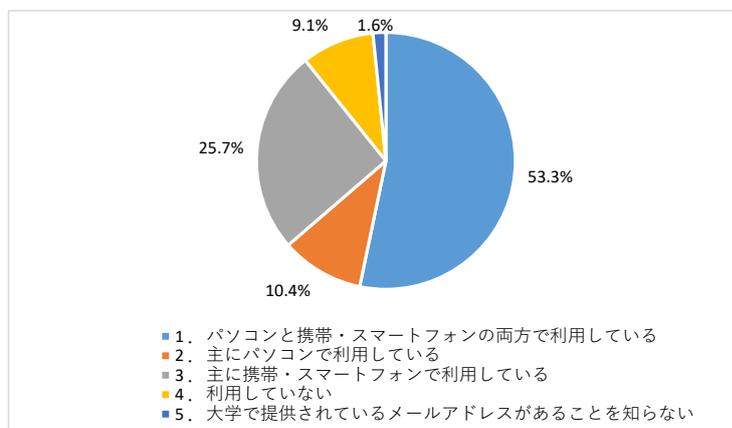


部・同好会活動等で活躍した個人・団体への表彰である「功労賞」と学業面で頑張った学生への表彰である「学修賞」の「どちらも知っている」割合は33.7%と前回の26.3%から7.4ポイント増加した。しかし、どちらか一方だけを知っている割合が29.2%、どちらも知らない割合が37%と高く、「功労賞」と「学修賞」の制度の存在や受賞者の功績について機会をとらえて発信してゆく必要がある。

36 大学で提供されているメールアドレス(学籍番号@kwmw.jp)を利用していますか。

1. パソコンと携帯・スマートフォンの両方で利用している
2. 主にパソコンで利用している
3. 主に携帯・スマートフォンの両方で利用している
4. 利用していない
5. 大学で提供されているメールアドレスがあることを知らない

	1723
	335
	831
	294
	52
有効回答者数	3235



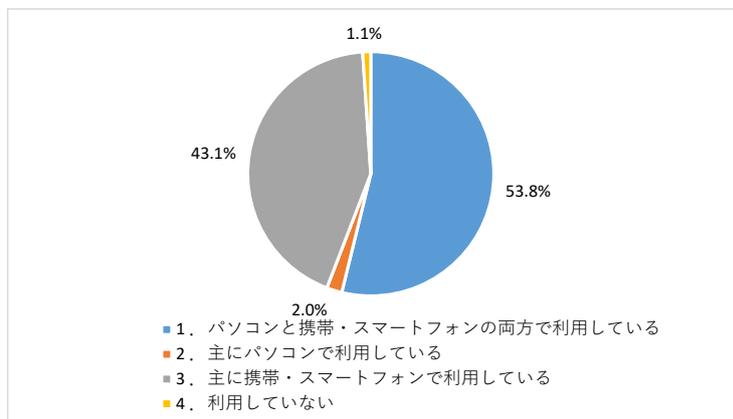
「利用している」と答えた学生が89.3%で、前回の92.1%からわずかに減少したが、大学が各学生に提供しているメールアドレスが、講義やポータルサイトを使った連絡などに有効に機能していることがわかる。「パソコンと携帯・スマートフォンの両方で利用している」が今回53.3%で、前回54.4%から1ポイント減少したが、「主にパソコンで利用している」が今回10.4%と前回の7.1%から3.3ポイント増加した。1年生は入学時からパソコン等の利用が推奨されていることが影響していると思われる。

37 学生用ポータルサイトを利用する際の端末は何ですか。

1. パソコンと携帯・スマートフォンの両方で利用している
2. 主にパソコンで利用している
3. 主に携帯・スマートフォンの両方で利用している
4. 利用していない

1736
65
1392
34

有効回答者数 3227



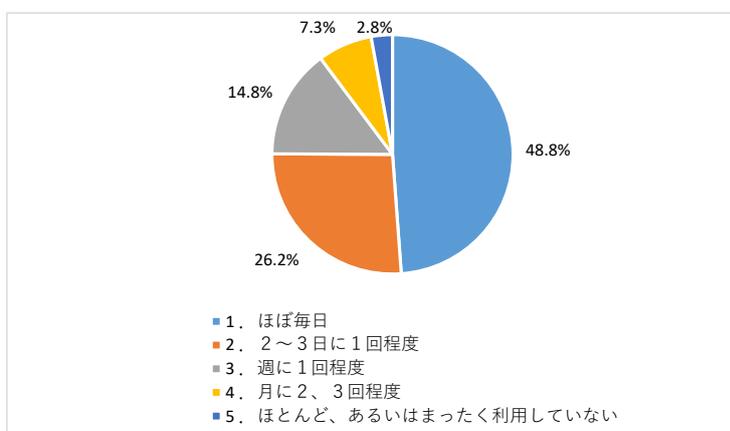
「パソコンと携帯・スマートフォンの両方で利用している」が53.8%と前回の54.9%から1.6ポイント減少したが、「主に携帯・スマートフォンの両方で利用している」が43.1%と約1ポイント増えた。だが、「利用していない」が1.1%と前回の0.5%から倍増した。引き続きポータルサイトを確認するよう学生には伝えてゆく必要がある。

38 今年度に入ってから、学生用ポータルサイトを利用する頻度はどれに近いですか。

1. ほぼ毎日
2. 2～3日に1回程度
3. 週に1回程度
4. 月に2、3回程度
5. ほとんど、あるいはまったく利用していない

1579
848
477
237
92

有効回答者数 3233



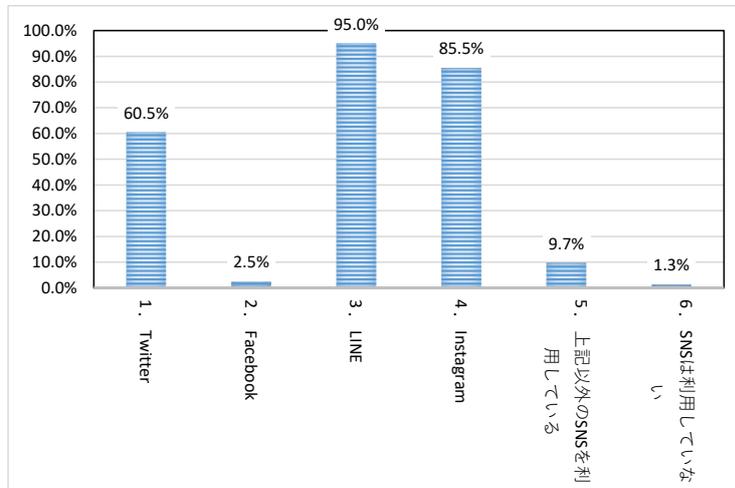
学生用ポータルサイトの利用頻度については、「ほぼ毎日」と「2～3日に1回程度」が合わせて75%で、前回の70.3%より4.3ポイント増加した。また、「月に2、3回程度」が7.3%と前回の8.2%から減少した。大学や学科の情報伝達や奨学金の連絡をはじめとする諸手続きのための手段として重要な役割を果たしていると考えられる。だが、「ほとんど、あるいはまったく利用していない」が2.8%と前回の1.5%から1.3ポイント増加し、わずかではあるが利用していない学生が増えている。

39) あなたは現在、以下のSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を日常的に利用していますか。利用しているものをすべてチェックしてください。

1. Twitter
2. Facebook
3. LINE
4. Instagram
5. 上記以外のSNSを利用している
6. SNSは利用していない

1956
81
3071
2763
315
43

有効回答者数 3231
有効回答数 8229



グラフの%は、有効回答者がそれぞれの選択肢を選んだ割合を示している。

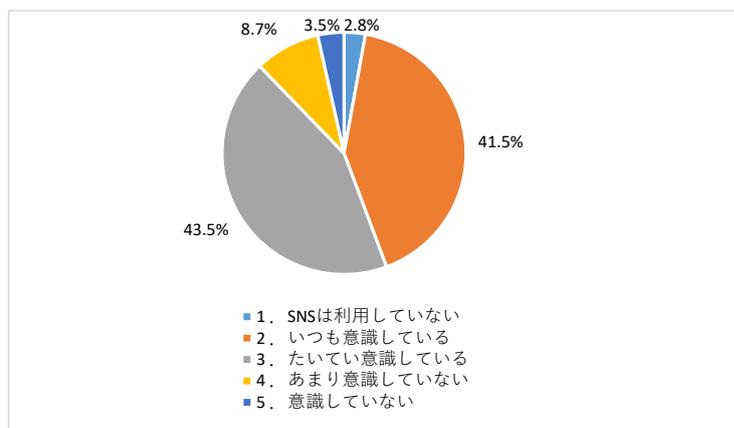
SNSの利用が98.7%とほぼ前回と同程度で、ほとんどの学生が利用しているという結果となった。LINEの利用率は、前回と同程度であったが、Instagramの利用が79.8%から85.5%と5.8ポイント増加している。上記以外のSNSの利用も9.7%と前回の4.7%から倍増した。TwitterやFacebookの利用は減少している。それぞれのツールについて、利便性の陰に潜んでいる危険性等についても意識を高める指導を継続していく必要がある。

40) SNS利用の際、発信される情報が適切かどうか、意識していますか。

1. SNSは利用していない
2. いつも意識している
3. たいてい意識している
4. あまり意識していない
5. 意識していない

91
1341
1405
281
112

有効回答者数 3230



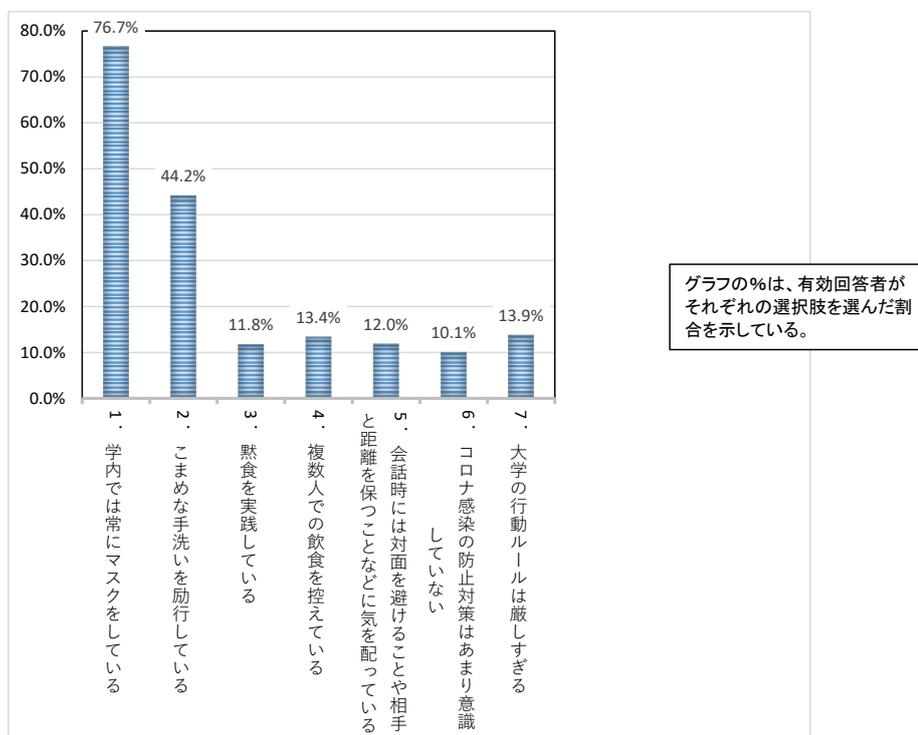
「いつも意識している」と「たいてい意識している」割合の合計が85%で前回の89.5%より4.5ポイント減少した。一方、「あまり意識していない」と「意識していない」の合計が12.2%と前回の10.5%より1.7ポイント増えた。引き続き指導を徹底して「意識していない」割合を0%に近づける必要がある。

41 生活面に関わる新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、あてはまるものをすべてチェックしてください。

1. 学内では常にマスクをしている
2. こまめな手洗いを励行している
3. 黙食を実践している
4. 複数人での飲食を控えている
5. 会話時には対面を避けることや相手と距離を保つことなどに気を配っている
6. コロナ感染の防止対策はあまり意識していない
7. 大学の行動ルールは厳しすぎる

2458
1416
379
431
383
323
444

有効回答者数 3205
有効回答数 5834



「学内で常にマスクをしている」が76.7%（前回96.7%）、「こまめな手洗いの励行」が44.2%（前回63.8%）、「黙食を実践」が11.8%（前回35.2%）、「複数人での飲食を控えている」が13.4%（前回42%）、「会話時には対面を避けることや相手と距離を保つ」が12%（前回22.9%）など、新型コロナウイルス感染症拡大防止に関して何らかの対策を意識的に行っている学生の割合は大幅に減少した。また、「大学の行動ルールは厳しすぎる」の割合が13.9%と前回の5.8%から8.1ポイント増加した。これは新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、規制が緩和された影響が考えられる。

VI 学生生活委員会 (令和 5(2023)年度)

委員長	古我 知成 (理学療法学科)
副委員長	田並 尚恵 (医療福祉学科) 矢納 陽 (診療放射線技術学科)
委員	後藤 祐之 (医療福祉学科) 神林ミユキ (医療福祉学科) 今里有紀子 (臨床心理学科) 林 明弘 (臨床心理学科) 青井 則子 (子ども医療福祉学科) 重松 孝治 (子ども医療福祉学科) 石田実知子 (保健看護学科) 西田 洋子 (保健看護学科) 澳 昂佑 (理学療法学科) 永田 裕恒 (理学療法学科) 用稲 丈人 (作業療法学科) 真鍋 圭 (作業療法学科) 三村 邦子 (言語聴覚療法学科) 山崎 志穂 (言語聴覚療法学科) 荒木 俊介 (視能療法学科) 清水 美佳 (視能療法学科) 黒住 菜美 (臨床検査学科) 田中 慎一 (臨床検査学科) 舛田 隆則 (診療放射線技術学科) 矢納 陽 (診療放射線技術学科) 片岡 真吾 (臨床工学科) 鳥越 貴之 (臨床工学科) 三宅 沙知 (臨床栄養学科) 宮田 富弘 (臨床栄養学科) 小柳 えり (健康体育学科) 西本 哲也 (健康体育学科) 坂本 圭 (医療福祉経営学科) 柴山麻祐子 (医療福祉経営学科) 大井 悠成 (医療情報学科) 虫明 昌一 (医療情報学科) 亀井 純子 (医療秘書学科) 田中 伸代 (医療秘書学科) 森 絵美 (医療福祉デザイン学科) 山形千星子 (医療福祉デザイン学科) 松本麻友子 (総合教育センター) 宮川 健 (学生相談室長) 依田 健志 (健康管理センター長) 難波 英昭 (学生課長)

令和 5 (2023) 年 12 月 刊行

調査実施・執筆編集

川崎医療福祉大学 学生生活委員会

